

運営及び競技上の確認事項

1 日程	8月 9日 (金)	審判会議	13:00
		監督会議	14:00
		県別ミーティング	15:00
		開会式	16:00
		閉会式	決勝戦終了後
8月10日 (土)	開館	8:30	
	競技開始	9:00	
	閉会式	決勝戦終了後	

2 メディカルチェック

8月10日 (土) 8時40分より女子団体形に出場する選手を優先的に行い、順次試合間近の選手を優先的に行う。

メディカルチェックについては、監督同伴にて実施。チェックシートを監督に渡すので、審判より提示が求められた場合は、監督が提出する。

3 練習会場

(1) 8月 9日 (金) ※本日

- ① 場 所 『サイクルショップコダマ大洲アリーナ メインアリーナ』
 ② 割り当て

時 間	A・Bコート	C・Dコート
10:00～10:50	沖 縄	大 分
11:00～11:50	宮 崎	熊 本
12:00～12:50	福 岡	佐 賀
13:00～13:50	長 崎	鹿児島

(2) 8月10日 (土) ※明日

- ① 場 所 『サイクルショップコダマ大洲アリーナ サブアリーナ・剣道場』

4 競技上の確認事項

(1) (公財)全日本空手道連盟協議規定及び本大会要項を適用する。

(2) 形競技

- ① 得点方式とする。
 ② 演武できる形は、次の通りとする。

ラウンド	使用できる形
1	(公財)全空連第一指定形、鉄騎(ナイハンチ)初段～三段、サンチン、ゲキサイ第一、ゲキサイ第二、平安(ピンアン)初段～五段
2	(公財)全空連第二指定形
メダルマッチ	(公財)全空連得意形 ※ 第1・2ラウンドで使用した形の使用も可能

※ 上位進出決定にかかる同点が発生した場合は、有効点のうち最低点、最高点の順に比較し、それでも同点の場合は再演武とする。

※ 再演武となった場合、使用できる形は本ラウンドで演武した以外の形とする。

- ③ 次ラウンドへの進出数は次のとおりとする。

1位

ア 個人戦

第1ラウンド	1G 8名×4G	上位4名が第2ラウンドへ進出
第2ラウンド	1G 8名×2G	上位3名がメダルマッチへ進出
メダルマッチ	決勝戦	各G位同士
	3位決定戦	各Gの2位と3位, 3位と2位

イ 団体戦

第1ラウンド	8チーム・9チームの2G	上位4チームが第2ラウンドへ進出
第2ラウンド	1G 8チーム×2G	上位3チームがメダルマッチへ進出
メダルマッチ	決勝戦	各グループ1位同士
	3位決定戦	各グループの2位と3位, 3位と2位

- ④ 第2ラウンドの演武順は抽選で決定する。第1ラウンド終了後、速やかに競技場中央の抽選所に集合すること。
- ⑤ 試合開始時に3回呼ばれも現れなかった選手(チーム)は棄権とみなされる。
- ⑥ 帯の色は、A・Bコートは赤帯、C・Dコートは青帯とする。
 - ・ 第1ラウンドからメダルマッチまで帯の色は変えない。
 - ・ メダルマッチでは、赤帯の選手が先に演武する。
- ⑦ 反則行為(試合前後の礼を行わなかった等)があった場合、審判全員で確認をし、反則(0点)ではなく、最低点(5.0)とする。
- ⑧ 入退場の仕方は以下のとおりとする。

ア 第1・第2ラウンド

演武順に選手は呼名されたら競技コート隅で返事を行い、L字形に演武開始位置に進む。『礼①』をして形の宣告をし、演武をする。演武終了時、『礼②』をする。選手は後方に下がり、ホイッスルを聞いて入場とは逆サイドに退場する。

イ メダルマッチ

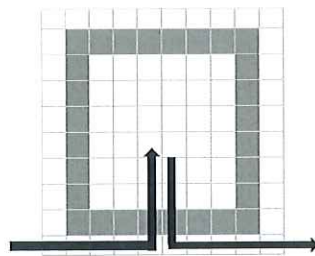
赤の選手から呼名する。競技コート隅で返事を行い、「礼」をせず場外中央位置に出て、演武開始位置に進む。青の選手はその場で待機する。退場は入ってきた方と同じ方向に出ていく。青の選手は演武終了後、主審の左手側に、赤の選手は主審の右手の場外所定位置につき、横列になり判定を待つ。判定終了後、お互いに礼、正面に礼をし、退場する。

ウ 礼は、演武開始時と演武終了時の2回のみとする。コートの入退場時にける礼は行わない。

エ 第1・第2ラウンドで敗退した選手は、競技上から退出する。

<1・2ラウンド>

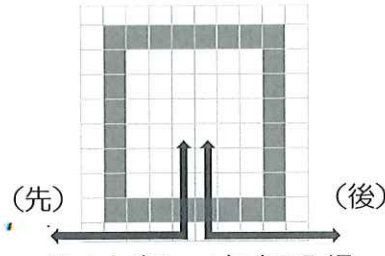
【審判】



※呼名後入場し、演武後逆サイドに退場

<メダルマッチ>

【審判】



※1人(チーム)ずつ入場し、演武

- ⑨ 形申告票の提出はない。

(3) 組手競技

- ① トーナメント方式とする。
- ② 3位決定戦は行わない。
- ③ 6ポイント差, 1分30秒フルタイム。ただし、6ポイント以上の差で決着がついた場合は、獲得したポイントを正確に記録する。

<同点の場合>

- ・ 競技終了時点で同点の場合、先取した競技者が勝者となる。
- ・ 先取がない場合、一本・技ありの順で数の多い競技者が勝者となる。

<引き分けの場合>

- ・ 個人戦…判定により勝者を決する。
- ・ 団体戦…取得ポイント数により勝者を決する。ポイント数が同じ場合は勝者決定戦を行う。
(6ポイント以上の差が出た場合、実際の得点ポイントを記録する。)
勝者決定戦が引き分けの場合、勝者決定戦においての判定を行う。

- ④ ペナルティによる勝ち6ポイント、負けは0ポイントとする。
- ⑤ 団体組手は、初戦のみ大将戦まで行う。以降は、どちらかが2勝して勝負が決定した場合、競技終了とする。規定の3人に満たない場合でも、過半数(2人)の選手で成立する。ただし、対戦するチーム双方が2名の場合、前詰めとする。団体オーダーの順番は試合毎に変更できるが、一度提出したオーダーの順番は変更できない。
- ⑥ (公財)全日本空手道連盟指定安全具を着用すること。

ア 男子(6点)

正拳サポーター(赤・青)、ボディプロテクター、ニューメンホー(VI、VII)
ファールカップ、シンガード、インステップガード

イ 女子(5点)

正拳サポーター(赤・青)、ボディプロテクター、ニューメンホー(VI、VII)
シンガード、インステップガード

ウ マウスシールドは任意とする。

エ 団体組手の場合は、出場選手分の競技用品を用意する。

オ 選手招集の時点でボディプロテクターとファールカップは装着しておく。

- ⑦ 倒した、または倒れた相手への蹴りによる攻撃は禁止とする。
- ⑧ 組手競技はカデットルールを適用する。
- ・ 上段突きによる攻撃は、スキントッチ、又は接触した場合は忠告以上をとる。
 - ・ 上段への蹴りによる攻撃はスキントッチ程度であれば技としてとる。
 - ・ 九州中体連確認事項により、中段への攻撃は帯より下への攻撃は認められない。
- ⑨ 蹴り技を受け、片足をつかみ、相手が受身をとれない危険な投げ技は禁止である。
- ~~⑩ 10カウントルールは適用しない。~~
- ⑪ 呼名係のコール時に選手はゼッケンを主審に見せる。
- ⑫ 競技後はメンホーをかぶったまま、勝敗の宣告を聞き、礼をする。
- ⑬ 試合中、安全具や空手着の改善の必要が発覚した場合は1分以内に行う。改善できなければ、その試合は棄権となる。ただし、故意によるものでなければ配慮する。(試合中のメンホーや拳サポーターの破損など不可抗力によるもの等)
- ⑭ 団体組手オーダー表
- ア ~~受付時に渡す封筒に同封してある用紙に初戦のオーダーを事前に記入し、各コートのコート係に提出する。~~
- イ 勝ち上がったチームは、コート係から新しいオーダー表を受け取り、次戦のオーダーを記入し、すみやかに各コート係に提出する。
- ウ 決勝戦のみ招集所でオーダーの提出を行う。

(4) 共通

① 監督・コーチ

- ア ベンチは、監督と同時にコーチも入れる。同じチームの選手が同時に複数コートで試合をするときは、コーチのみのベンチ入りを認める。
- イ 監督・コーチはIDカードを携行すること
- ウ 監督・コーチの服装は、空手着もしくは白色のYシャツ・ブラウス・ポロシャツと黒・紺・グレーのスラックス(スカート)とする。
- エ 主審が、舞いの悪い監督・コーチが競技進行の秩序を乱すと判断した場合、競技場から退場させることができる。また、監督・コーチが従うまで試合を中断することができる。主審の権限は、競技場内の選手を取り巻く人々にも及ぶ。

② 選手の服装・身なり

ア ゼッケンのない選手は出場できない。

イ 赤帯・青帯は選手が準備をする。

ウ 空手着は、腰の部分にひもがあるものを使用、試合前に必ず結ぶ。ひもがない空手着は、使用不可。(選手招集の時点で確認する。) 裾や袖が長い場合は内側へ折り込み縫い合わせておくこと。

エ 競技者の帯の長さは大腿部の3/4を超えないものとする。

オ 女子選手は、空手着の下にTシャツを着用する。

カ 眼鏡・金属製髪留めの使用は禁止。ソフトコンタクトレンズは各自の責任において使用してもよい。目立たないゴムバンドは2個まで可。全空連協議規定に従う。

キ ミサンガ等の不必要な装飾品は禁止する。身に付けていた場合は外させる。

ク 爪は短く切りそろえる。

ケ 所属校の校則を守り本大会に参加する。

③ 選手は、招集所で赤帯・青帯をつけ、入場する。(その他の帯は監督が持つ。) 組手競技中、勝ち進む中で帯が替わる場合は、監督から帯を受け取る。

④ 団体組手等で、取り囲んで選手を送りださない。

⑤ 技を決めた後、ガッツポーズをしないこと。

⑥ 応援は「拍手」のみとする。観客も含め「声」での応援はしない。

5 監督・コーチ・選手変更について

選手・監督コーチの変更届は、監督会議場(研修室)にて提出。

監督会議終了後の受付は、原則行わない。

6 特記事項

以上の規定以外のもので、緊急に決定しなければならないことが起こった場合、実行委員長・競技委員長・審判長で協議して決定することがある。

九州中学校空手道競技大会 審判会議確認事項

- 1 参加資格・参加制限 ※大会要項による（別紙）
- 2 コート 10m×10m（競技用マットを使用する。）
- 3 審判構成 【組手】主審1名，副審4名，監査1名より構成される。
【形】主審1名，副審4名で構成される。

4 大会審判確認事項

(1) (公財)全日本空手道連盟競技規定及び本大会要項を適用する。

(2) 形競技

- ① 審判5名による得点方式とする。
② 演武できる形は，次の通りとする。

ラウンド	使用できる形
1	(公財)全空連第一指定形，鉄騎（ナイハンチ）初段～三段，サンチン，ゲキサイ第一，ゲキサイ第二，平安（ピンアン）初段～五段
2	(公財)全空連第二指定形
メダルマッチ	(公財)全空連得意形 ※ 第1・2ラウンドで使用した形の使用も可能

※ 上位進出決定にかかる同点が発生した場合は，有効点のうち最低点，最高点の順に比較し，それでも同点の場合は再演武とする。

※ 再演武となった場合，使用できる形は本ラウンドで演武した以外の形とする。

③ 次ラウンドへの進出数は次のとおりとする。

ア 個人戦

第1ラウンド	1G 8名×4G	上位4名が第2ラウンドへ進出
第2ラウンド	1G 8名×2G	上位3名がメダルマッチへ進出
メダルマッチ	決勝戦	各G 1位同士
	3位決定戦	各Gの2位と3位，3位と2位

イ 団体戦

第1ラウンド	8チーム・9チームの2G	上位4チームが第2ラウンドへ進出
第2ラウンド	1G 8チーム×2G	上位3チームがメダルマッチへ進出
メダルマッチ	決勝戦	各グループ1位同士
	3位決定戦	各グループの2位と3位，3位と2位

- ④ 第2ラウンドの演武順は事前に抽選を行う。
⑤ 試合開始時に現れなかった選手（チーム）は棄権とみなされる。
⑥ 帯の色は，A・Bコートは赤帯，C・Dコートは青帯とする。
・ 第1ラウンドからメダルマッチまで帯の色は変えない。
・ メダルマッチでは，赤帯の選手が先に演武する。
⑦ 反則行為（試合前後の礼を行わなかった等）があった場合，審判全員で確認をし，反則（0点）ではなく，最低点（5.0）とする。
⑧ 入退場の仕方は以下のとおりとする。

ア 第1・第2ラウンド

演武順に選手は呼名されたら競技コート隅で返事を行い，L字形に演武開始位置に進む。『礼

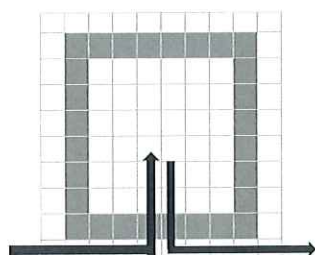
①』をして形の宣告をし、演武をする。演武終了時、『礼②』をする。選手は後方に下がり、ホイッスルを聞いて入場とは逆サイドに退場する。

イ メダルマッチ

赤の選手から呼名する。競技コート隅で返事を行い、「礼」をせず場外中央位置に出て、演武開始位置に進む。青の選手はその場で待機する。退場は入ってきた方と同じ方向に出ていく。青の選手は演武終了後、主審の左手側に、赤の選手は主審の右手の場外所定位置につき、横列になり判定を待つ。判定終了後、お互いに礼、正面に礼をし、退場する。

<1・2ラウンド>

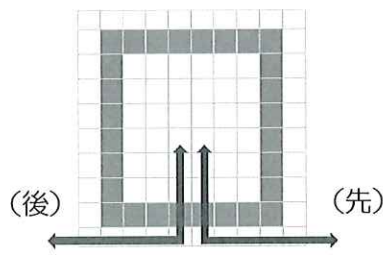
【審判】



※呼名後入場し、演武後
逆サイドに退場

<メダルマッチ>

【審判】



※1人(チーム)ずつ入場
し、演武

(3) 組手競技

- ① トーナメント方式とする。
- ② 3位決定戦は行わない。
- ③ 正、副審判長は全体を管理、監督する。各コート主任は何か問題が発生したら報告する。
- ④ 各コートのコート主任は全ての競技における主審、副審及び監査を指名・配置し、監督する。
コート主任は審判員を兼務する。
- ⑤ 監査は競技を監督し、記録の監査をする。
- ⑥ 6ポイント差、1分30秒フルタイム。ただし、6ポイント以上の差で決着がついた場合は、獲得したポイントを正確に記録する。

<同点の場合>

- ・ 競技終了時点で同点の場合、先取した競技者が勝者となる。
- ・ 先取がない場合、一本・技ありの順で数の多い競技者が勝者となる。

<引き分けの場合>

- ・ 個人戦…判定により勝者を決する。
- ・ 団体戦…取得ポイント数により勝者を決する。ポイント数が同じ場合は勝者決定戦を行う。
(6ポイント以上の差が出た場合、実際の得点ポイントを記録する。)

勝者決定戦が引き分けの場合、勝者決定戦における判定を行う。

- ⑦ ペナルティによる勝ち6ポイント、負けは0ポイントとする。
- ⑧ 団体組手は、初戦のみ大将戦まで行う。以降は、どちらかが2勝して勝負が決定した場合、競技終了とする。規定の3人に満たない場合でも、過半数(2人)の選手で成立する。ただし、対戦するチーム双方が2名の場合、前詰めとする。団体オーダーの順番は試合毎に変更できるが、一度提出したオーダーの順番は変更できない。オーダー表は、コート主任が確認する。
- ⑨ (公財)全日本空手道連盟指定安全具を着用すること。認定マークが付いているものは可。

ア 男子(6点)

正拳サポーター(赤・青)、ボディープロテクター、ニューメンホー(VI、VII)
ファールカップ、シンガード、インステップガード

イ 女子(5点)

正拳サポーター(赤・青)、ボディープロテクター、ニューメンホー(VI、VII)
シンガード、インステップガード

ウ 団体組手の場合は、出場選手分の競技用品を用意する。

- ⑩ 倒した、または倒れた相手への蹴りによる攻撃は禁止とする。
- ⑪ 組手競技はカデットルールを適用する。
 - ・ 上段突きによる攻撃は、スキンタッチ、又は接触した場合はウォーニングとなる。
 - ・ 上段への蹴りによる攻撃はスキンタッチ程度であれば技としてとる。
 - ・ 九州中体連確認事項により、中段への攻撃は帯より下への攻撃は認められない。
- ⑫ 蹴り技を受け、片足をつかみ、相手が受身をとれない危険な投げ技は禁止である。
- ⑬ 呼名係のコール時に選手はゼッケンを主審に見せ、主審は選手を確認する。
- ⑭ 競技後はメンホーをかぶったまま、勝敗の宣告を聞き、礼をする。
- ⑮ 試合中、安全具や空手着の改善の必要が発覚した場合は1分以内に行うこと。改善できなければ、その選手は棄権となる。ただし、故意によるものでなければ配慮する。(試合中のメンホーや拳サポーターの破損など不可抗力によるもの等)

(4) 共通

- ① 自県の選手が出場するときは、審判から外れることが望ましい。
- ② ベンチは、監督と同時にコーチも入れる。同じチームの選手が同時に複数コートで試合をするときは、コーチのみのベンチ入りを認める。
- ③ 主審が、振る舞いの悪い監督・コーチが、競技進行の秩序を乱すと判断した場合、競技場から退場させることができる。又、監督・コーチが従うまで試合を中断することができる。主審の権限は、競技場内の選手を取り巻く人々にも及ぶ。

5 その他

(1) 競技日(8/10)の連絡

集合時間・場所	8時40分・研修室
控室(荷物置き場)	研修室
昼食会場	研修室

(2) 審判宿舎

『ニューグロリア大分ホテル』

住 所 大分市寿町11-31

TEL 097-534-6421

【 会場使用上の注意 】

(1) 大洲アリーナ 会場使用上の注意

- ① メインアリーナとサブアリーナの間に緑のマットに関しては、土足厳禁。(土足での通行許可場所は、メインアリーナ観覧席にあがる階段付近と、サブアリーナの1Fに降りる階段付近の2箇所)
※監督・選手等は、裸足(体育館シューズ)で緑のマット上を移動すること。
- ② 体育館へは、8時30分より2F正面玄関(正面の外階段を上がる)から入場すること。
- ③ メインアリーナ・サブアリーナのフロアのみ裸足とする。フロアの入口付近に外靴を置かない。サブアリーナに設置している県別の靴置き場(ブルーシート上)に置くこと。
- ④ 観客席で飲食は可能。ごみの持ち帰りに協力すること。(特に、ペットボトルに関して、会場内に設置しているリサイクルボックスの利用は控えること。)
- ⑤ 応援を含む本大会参加者・関係者については、事故防止のため「使用施設以外への立ち入り」「危険と思われる場所等への立ち入り」「廊下・階段等での遊び」は禁止。
また、練習やウォーミングアップにつきましても、廊下や階段、観客席等では禁止。
(練習会場は、サブアリーナと剣道場。)
- ⑥ 盗難については、責任を負いかねるので、貴重品や持ち物の管理は各チームで責任をもって管理すること。
- ⑦ 館内は禁煙。喫煙に関しては、館外の2階と1階にある灰皿設置場所にて行う。
- ⑧ 選手等が収録されている画像、動画等については、インターネット上で公開することは禁止とする。
- ⑨ 水筒などをフロア内に持ち込む際は、タオルなどで包み水滴等が落ちないようにする。

(2) 更衣室について

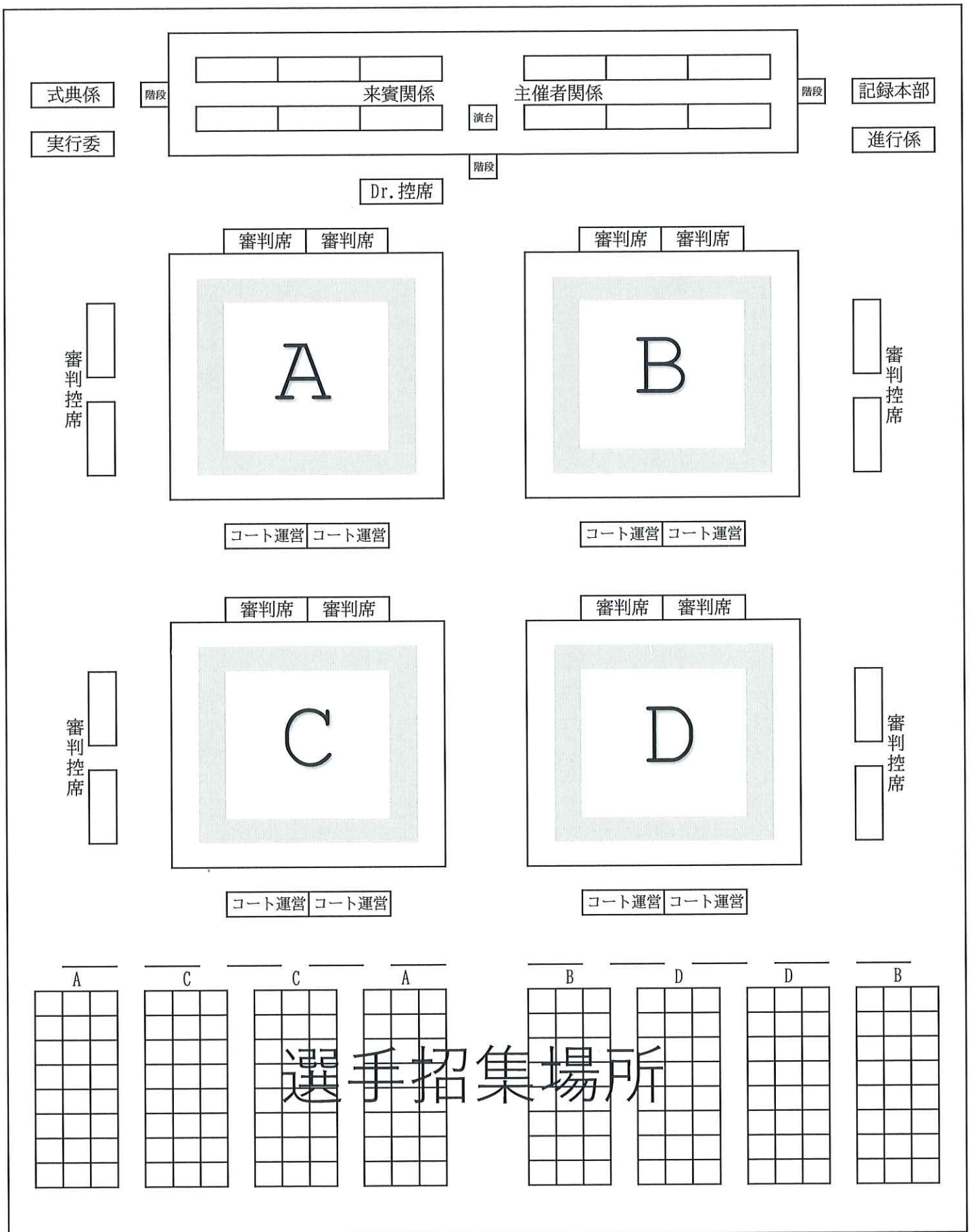
- ① 更衣室につきましては、サブアリーナと剣道場の更衣室を使用。
- ② メインアリーナの更衣室は大会役員室(記録室等)になるので、使用不可。

(3) 選手の荷物置場について

- ① 2F観客席にある県名札に従い、オレンジ色のベンチが待機場所となる。
- ② 観客席前方にある白色のベンチは、各県自由に試合観戦に使用し、応援チームの試合終了後は、速やかに場所を開けること。

(4) 昼食について

- ① 弁当は、観客席で食べることは可能。
- ② 大会指定業者に注文した弁当の受け渡しならびに弁当殻の回収については、監督会議の際の業者からの指示に従うこと。



式典係

実行委

階段

来賓関係

演台

主催者関係

階段

記録本部

進行係

Dr. 控席

審判席 審判席

審判席 審判席

審判控席

審判控席

コート運営 コート運営

コート運営 コート運営

審判席 審判席

審判席 審判席

審判控席

審判控席

コート運営 コート運営

コート運営 コート運営

A

C

C

A

B

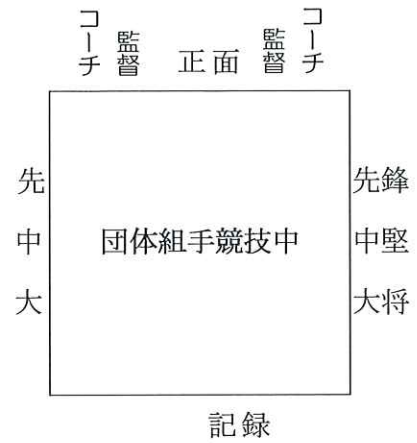
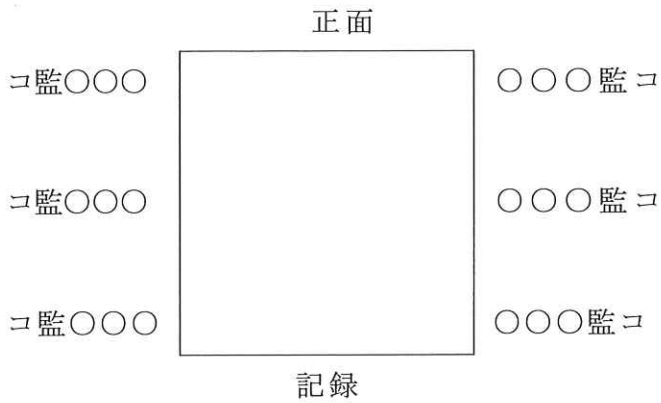
D

D

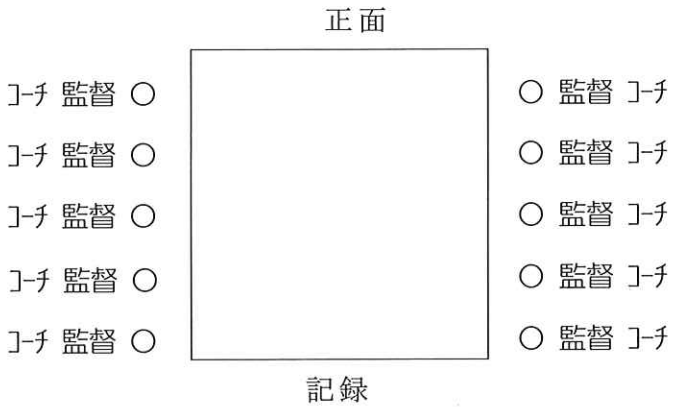
B

選手招集場所

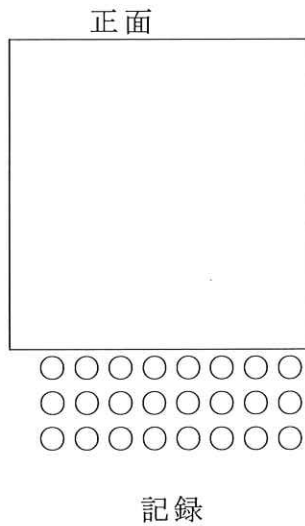
《監督・選手の所定の位置…団体戦組手整列場所》



《監督・選手の所定の位置…個人戦組手整列場所》



《監督・選手の所定の位置…形整列場所》



※選手の試合の際は、監督、コーチ席に座ってください。

※形競技の際は、ラウンドの開始・終了時は、左の図に準じて整列してください。

※演武をしていない選手・監督・コーチは、指定された待機場所で待機してください。

【 開・閉会式（表彰含む） 】

(1) 開会式

- ① 参加者 参加選手全員
- ② 服装 試合で着用する空手着（ゼッケン・県名付き）
- ③ 集合時間 15：50 集合完了（開始通告16：00）
- ④ 集合場所 メインアリーナ
- ⑤ 集合隊形 県別のプラカード前に男女各2列で整列

正面			
沖	宮	大熊	長佐福
縄	崎	分本	崎賀岡

(2) 閉会式

- ① 参加者 原則として全員参加とする。
- ② 服装 試合で使用する空手着（ゼッケン・県名付き）
- ③ 集合時間 16：00（予定）（開始通告16：10 予定）
- ④ 集合場所 メインアリーナ
- ⑤ 集合隊形 県別のプラカード前に男女各2列で整列
※ 各種目入賞者は別途整列（下記参照）

プラカード			
女子 団体 組手 ・ 女子 個人 形	女子 団体 形 ・ 女子 個人 形	男子 団体 組手 ・ 個人 組手	男子 団体 形 ・ 男子 個人 形

※ 形・組手とも出場の場合は、各列均等になるよう調整してください。

(3) 表彰・閉会式

- ① 表彰順 形（表彰式） 女子個人形→男子個人形→女子団体形→男子団体形
組手（閉会式） 女子個人組手→男子個人組手→女子団体組手→男子団体組手
- ② 集合隊形 各種目3位までの入賞者・入賞チームの代表1名（優勝チームのみ3名）は、閉会式前に係誘導に従って、整列する。

	(団体)				(個人)			
女子形	①①①	②	③	④	①	②	③	④
男子形	①①①	②	③	④	①	②	③	④ ※○数字は順位

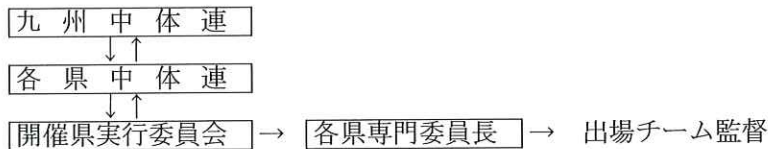
③ 表彰の流れ

- ア 成績発表時、呼名されたら返事をし、正面に順位毎に整列する。
- イ 成績発表終了後、女子個人種目から順に表彰を受ける。
- ウ 種目ごとに全員で礼をし、右側から回り、自県の列の後方に並ぶ。
- エ 個人種目の表彰後、団体種目の選手は右側へ移動し表彰を受ける。
- オ 種目ごとに全員で礼をし、右側から回り、自県の列の後方に並ぶ。

1 大会運営の基本

- (1) 原則
 - ① 九州の代表を決定することを原則とする。
 - ② 大会成立のための必要参加数は、各競技全国大会出場枠数（団体・個人）とする。
 - ③ 競技により1日の順延もあり得る。（軟式野球・ソフトテニス・ソフトボール・テニス）ただし、沖縄県開催競技については、沖縄県計画輸送の範囲内で行う。
- (2) 留意事項
 - ① 大会成立のための必要参加数を満たさず、大会が成立しなかった場合
→ 『抽選を実施し、推薦』
 - ② 大会成立のための必要参加数の参加があり、大会が成立した場合
 - ②-1 全中出場チーム・個人は決定しているが、代表順位が決定していない場合
→ 『代表順位を抽選』
 - ②-2 全中出場チーム・個人が決定していない場合
→ 『勝ち残っているチーム・個人での抽選を実施し、推薦』
 - 【①②に係る推薦・抽選の取扱いについて】
推薦・・・大会成立のための必要参加数は満たしたが、競技未実施または、大会が中止になった場合、参加予定チーム・個人で抽選を実施し、該当チーム・個人を推薦する。
抽選・・・災害等で A：大会が中止になった場合 B：代表順位が決定していない場合 C：大会は成立したが全中出場チーム・個人が決定していない場合に抽選を行う。
※全中出場枠が決定している場合『抽選』全中出場枠が決定していない場合『抽選・推薦』
 - ③ 運営方法を変更して実施することも可能 → 『競技2日間を1日に短縮等』
 - ④ いずれの場合も、最終判断は九州中体連会長が行う。ただし、大会運営上、迅速な対応が求められる場合、九州中体連会長代行として開催県中体連会長が判断してもよい。その場合、九州中体連会長に事後報告を行う。

(3) 緊急時の連絡



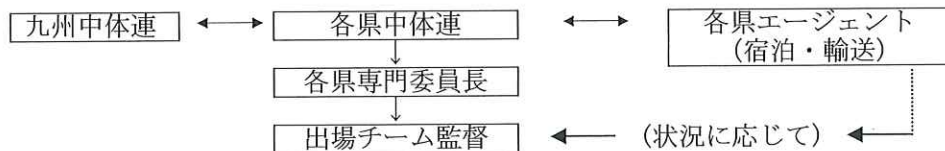
(4) 補足

- ① 陸上及び水泳については、2県参加が成立基準。（大会中止もあり得る）
- ② 競技大会は成立したが、男子種目又は女子種目どちらかのみで開催もあり得る。その場合の措置は、上記留意事項①②に準ずる。

2 荒天時の対応

- (1) 方針 出場チームの大会参加が可能な方向で、最大限の努力と配慮をする。
- (2) 連絡態勢
 - ① 不確定な情報の錯綜による、出場チームの混乱を防ぐために、各県中体連が緊密に連絡を取り合い、確実な情報提供に努める。
 - ② 最終判断時刻は未定につき、各県関係者は確実に連絡がとれるようにして待機しておく。

(3) 連絡方法



- (4) 競技前日
 - ① 深夜及び翌日の到着見込みがあれば、到着遅延県の「専門委員会」「監督会議」「開会式」への参加を免除し、予定通り実施してもよい。なお、協議内容は確実に事後連絡する。
 - ② 各県実行委員会は、競技会場、宿舎確保、既着県の延泊経費負担等の状況を考慮し、競技開始最大遅延可能日時を設定しておく。
- (5) 競技運営
 - ① 大会そのものの運営が優先されるため、台風の進路予想によっては突然の再変更があり得る。したがって到着したにもかかわらず、出場できなかったという事態が生じる場合もある。
 - ② 屋外実施競技においては、晴雨の状況に応じて上記の場合と同様の対応を取る場合がある。
 - ③ 専門委員会及び監督会議で確認し、九州中体連会長の了承が得られれば、順延が可能な競技もある。（軟式野球・ソフトテニス・ソフトボール・テニス）

3 感染症への対応

- (1) 方針 疑い、症状のある場合には、ただちに医療機関に搬送し、医療機関の指示、指導を受け、感染拡大防止等に努める。
- (2) 連絡方法 大会運営の基本 (3) の緊急時の連絡に準ずる。尚、行政へも連絡すること。
- (3) 競技運営 大会参加可能なチーム・選手によって、代表を決定する。
※具体的な対応については、(別紙・別様式)に示す

4 全国瞬時警報システム（Jアラート）への対応

- (1) 発生事例
 - ① 大規模自然災害（地震・津波・火山噴火等）
 - ② 武力攻撃事態（弾道ミサイル発射等）・存立危機事態
- (2) 方針 大会に関わる全ての人の生命及び安全を確保するために、最大限の努力と配慮をする。
- (3) 連絡方法 発生事象に応じて、実行委員会が関係機関と連携して、待機・避難等の連絡を速やかに行う。
- (4) 競技運営 事前に大会の中断・待機・避難・再開等のマニュアルを作成して、大会関係者に周知しておく。

九州大会における危機管理・避難等について

R6. 6. 11

1 全国瞬時警報システム（Jアラート）が発令された時の対応

（1）発生事例

- ①大規模自然災害（地震・津波・火山噴火等）
- ②武力攻撃事態（弾道ミサイル発射等）・存立危機事態

（2）方 針

- ① 即座に競技を中断する。
- ② 発生事象内容を確認して、必要に応じて選手・役員・観客を避難させる。
- ③ 行政の指示に従い、実施不可能な場合は延期又は中止する。安全が確認できたら再開する。

2 光化学オキシダント・PM2.5の警報・注意報等発令時の対応

開催県及び開催市町村の健康被害防止措置に応じて、開催県実行委員会の判断で競技の中断等の対応をとり、被害の防止に努める。

3 雷雲発生時の対応

雷鳴が聞こえ、雷雲が近づく様子である場合は、屋外では競技を中断し、選手、役員、観客を安全な場所へ避難させる。

4 緊急時対応のため開催県実行委員会の事前準備

- ① 開催県及び開催市町村が定めている気象関係の警報・注意報等発令時の対応を確認しておく。
- ② 警報・注意報等が発令時に速やかに周知できる連絡体制を整備する。
- ③ 会場の担当者との事前打ち合わせを行う。
- ④ 大会会場の避難経路を確認する。
- ⑤ AED設置場所を会場図に明記する。
- ⑥ 緊急時の実行委員の役割分担を確認する。
- ⑦ 大会出場者（引率者）・大会役員・補助員等への事前連絡を行う。

5 競技の再開について

競技中断後は、警報等が解除され、負傷者等の有無を確認・処置を行い、会場の安全が確認されたうえで、開催県実行委員会で協議をして再開を決定する。

6 その他

その他、緊急事態が発生した場合は、開催県実行委員会で対応を協議し、安全な大会運営に努める。

災害等緊急時における九州大会 実施態度決定計画

【基本方針】

選手、役員など参加者の安全確保を最優先

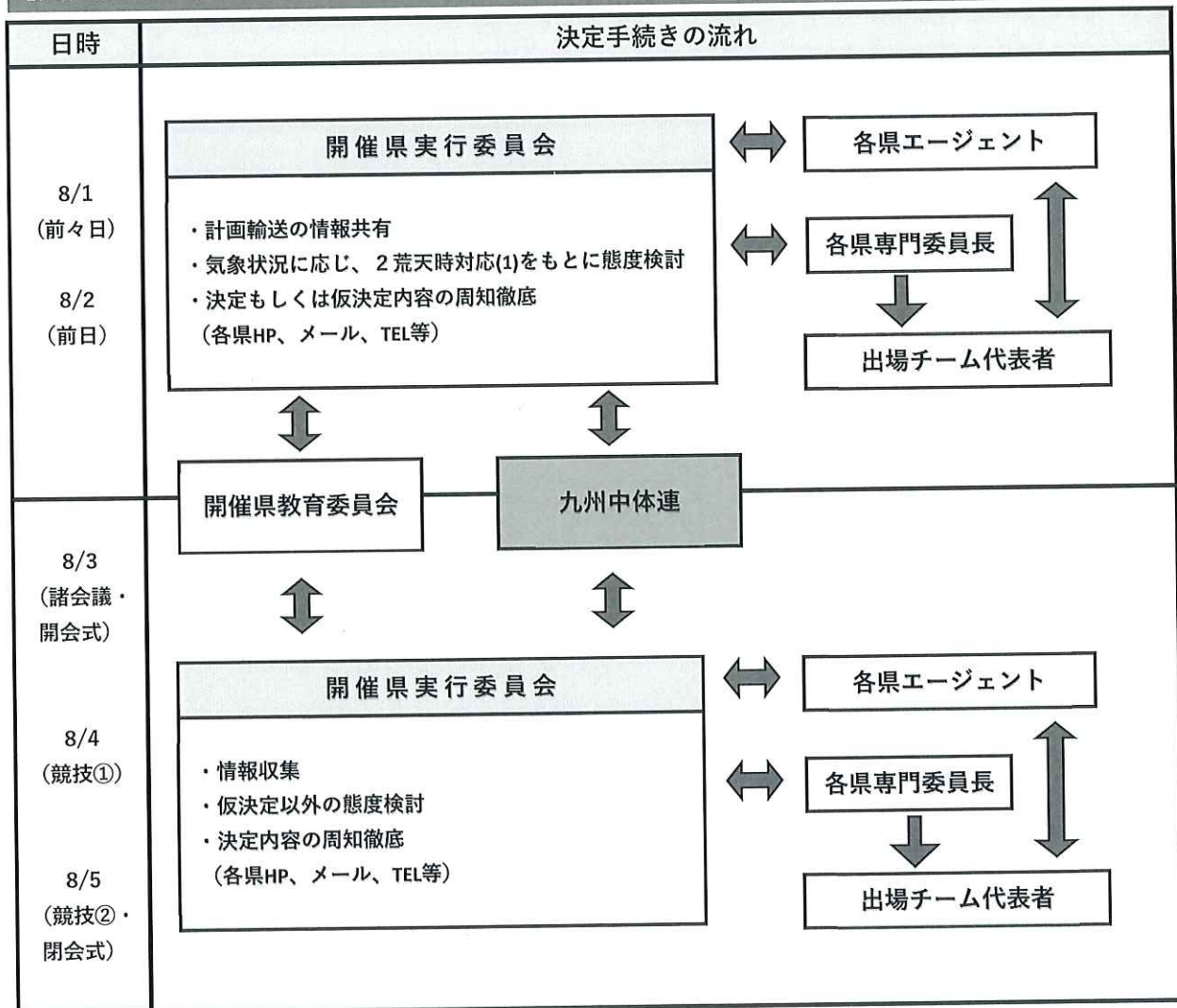
- (1)悪天候の場合でも参加者の安全が確保される場合は、荒天時対応
- (2)大会期間中に急激な気象状況の変化により、参加者の安全確保が困難であると判断した場合は、大会を中断又は中止

【判断基準】

態度決定時において、次のいずれかに該当する事案が発生した場合は大会中止も検討する。

- (1)大会開催期間に台風の暴風域が直撃する予想が発表された場合
- (2)会場地に大雨、洪水、暴風などの警報が発表された場合
- (3)会場が実施可能な状態を保てない場合（避難所開設等も）
- (4)公共交通機関に大幅な遅れや運休が見込まれ、選手、役員、運営スタッフ等が会場に参集できない場合

【例】 8/1(前々日) 8/2(前日沖縄入り) 8/3(諸会議・開会式) 8/4(①競技) 8/5(②競技・閉会式)



九州中学校体育大会における熱中症対策

九州中学校体育連盟

みんなで熱中症に気をつけて安全な大会にしましょう!

事前対策

- 睡眠をしっかりとりなどして、体調を整えて参加しましょう。
- 通気性のよい服装や帽子着用をしましょう。
- 十分な飲料水や氷のうなどの冷却グッズを持参しましょう。
- 簡易テントなど日差しを避ける準備をしましょう。

会場での対策

- 水分をこまめにとりましょう。
※ スポーツドリンクなど塩分・糖分を含む飲料が効果的。
- 休憩をこまめにとりましょう。
※ 風通しのよい陰などで休む。
- 適宜、体温を下げることに努めましょう。
※ つめたい飲食や氷のう、水道にて頭部・腕・脚などを冷やす。
- 健康観察を互いにこまめにしましょう。
※ 体調の異変に気づいたらためらわず、すぐに救護室へ。
※ 小さな子どもや高齢の方は特に注意する。

チームでの対策

- 控え場所は、太陽の動きも考えて、日差しを避け、風通しのよい場所にしましょう。
※ チームのバスや宿舎を利用した待機・休憩等の工夫。
- 水分は自由にとることができる環境で、こまめにとりましょう。
- ウォーミングアップは、できるだけ日差しを避けた場所を選びましょう。
- 応援はできるだけ日差しを避け、涼しい所でこまめに休憩をとりましょう。
- 生徒相互の健康観察を引率の先生と定期的に行いましょう。
- 自分や仲間の体調の異変に気づいたら、すぐに引率の先生に伝えて、救護室へ行きましょう。

人命を優先した大会運営により、競技方法など変更があるかもしれませんが、ご理解とご協力をよろしく願います。

全日本空手道連盟

JKF脳しんとうガイドライン

大会ドクター、救護スタッフ用

頭部、顔面への打撃や転倒などにより審判が脳しんとうを疑った場合は、大会ドクターは直ちにコート外で診察を行う。診察の手順は別紙の通り行う。

- 1、 主審への事情聴取を行い、頭部打撲の状況を確認する。
- 2、 選手への問診により自覚症状を確認する。
- 3、 マドックステスト（改）の下記の質問をする。
 - 「今いる大会会場はどこですか？」
 - 「今は何回戦ですか？」
 - 「今の相手は誰ですか？」
 - 「今のスコアは何対何ですか？」（スコアを確認して答えても可）
 - 「試合残り時間は何秒ですか？」（時計を見て確認して答えても可）

全ての質問に正しく答えられない場合は脳しんとうの可能性を強く疑う。

- 4、 日本脳神経外傷学会、日本臨床スポーツ医学会の推奨するバランステストを行う。
 - 「利き足を前におき、そのかかとに反対の足のつま先を付けて立ちます。両手は腰において目を閉じ、20秒の間その姿勢を保って下さい。よろけて姿勢が乱れたら、目を開いて最初の姿勢に戻り、テストを続けて下さい。」

目を開ける、手が腰から離れる、よろける、倒れるなどのエラーが20秒間に6回以上ある場合や、開始の姿勢を5秒以上保持できない場合には、脳しんとうを疑う。

上記の診察により脳しんとうが疑われた場合はドクターストップを審判に伝え、審判は会場にその旨を宣言する。

以下の場合には脳しんとうが強く疑われるため、診察時の意識や症状に関わらず即刻ドクターストップとする。

- 1、 頭部、顔面への打撃によりスリップではない明らかなノックダウンがあった場合。
- 2、 頭部、顔面への打撃により一過性の意識消失で膝が落ちた事を審判が明らかに認めた場合。

脳しんとう疑いでドクターストップとなった選手はその後大会期間中の競技参加は認めない。

症状が重篤と判断した場合は即時救急搬送する。

軽度の場合でも選手を一人にせず、必ず誰かを付き添わせて経過観察する。

脳しんとうの手引きを選手に渡し、当日の安静を指示する。

選手の監督や家族に、専門家の診察を受ける様に指示する。

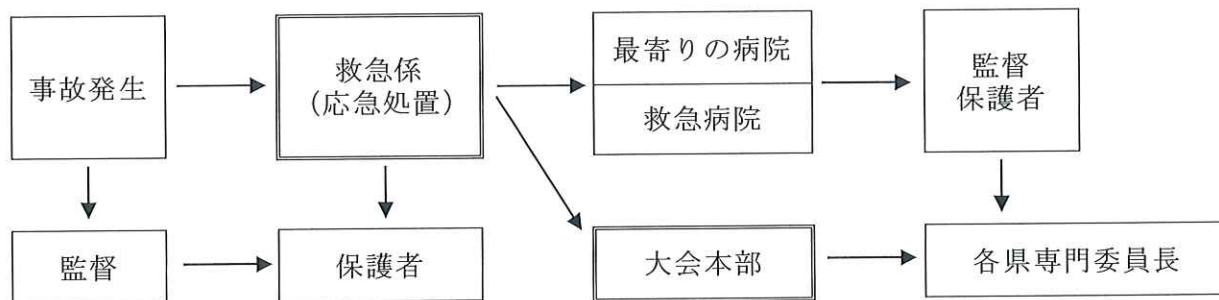
選手の練習参加は専門医の指示に従うよう指示する。

令和6年度 九州中学校体育大会
第20回九州中学校空手道競技大会

事故発生時の緊急体制について

事故が発生した場合は、速やかにその状況を各関係者(本部・監督・各県専門委員会・保護者)に連絡すること。

1 緊急時の連絡体制について



2 本部連絡先について

☆本部連絡先

(本部宿泊施設) 『アートホテル』

〒870-0034 大分県大分市都町2丁目1-7 TEL 097-538-8701

(大会会場) 『サイクルショッププロダマ大洲アリーナ』

〒870-0908 大分市青葉町1-1 TEL 097-551-1511

3 大会本部の対応について

大会本部の対応としては応急処置程度とし、後は医療機関にお願いする。

医療機関以降の対応については、監督・保護者で対応する。

4 救急病院一覧

医療施設名	所在地	電話番号
大分県立病院	大分市大字豊饒476	097-546-7111
大分赤十字病院	大分市千代町3-2-37	097-532-6181
今村病院	大分市大手町3-2-29	097-532-5181
大分中村病院	大分市大手町3-2-43	097-536-5050
大分健生病院	大分市古ヶ鶴1-1-15	097-558-5140
大分岡病院	大分市西鶴崎3丁目7-11	097-522-3131
大分アルメイダ病院	大分市大字宮崎1509-2	097-569-3121

※緊急時は上記以外の病院に搬送する場合がございます。

※昼間は各ホテル近くのクリニックをご案内することもあります。

詳しくは各宿泊ホテルにお問い合わせください。